

モニター心電図をマスターする!

第6回 第2章第1節第2項 洞調律



救急救命士・元埼玉西部消防局消防署長 大河原治平

第2章 心電図の読み方と関連知識

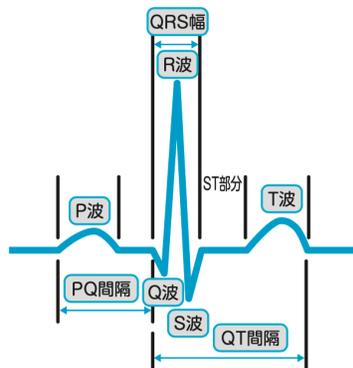
第1節 基本調律

第2項 洞調律 ～定義で読む～

「洞調律」と聞けば、「知っています、正常心電図です。」というイメージではないかと思います。

大部分の心電図関係書籍で、最初に紹介される基本調律は洞調律で、**図1**のような波形です。この波形で、P波→Q波、R波、S波→T波まで解説されることが多いのではないかと思います。

図1の心電図波形が「洞調律」である、と教えられ、記



P波：心房の興奮
PQ間隔：房室伝導時間
QRS波：心室の興奮
T波：心室興奮の回復
QT間隔：電氣的収縮時間

図1 心電図の基本波形¹⁾

憶されます。この時、無意識に「この形が洞調律!」と、多くの方が記憶されると思います。ここが、モニター心電図の判読を難しくする重要な分岐点です。

洞調律の定義は、QRS (の発現) に規則性があり、PとQRSが1対1の関係にあり、ハートレートが60回以上100回以下です。

従って、洞調律の定義にあてはまる**図2**の全てが洞調律です。

P波の同定にもコツが必要です。P波は、上向の半丸の波形として現れることが多いですが、実は形は様々です。洞調律では、QRSに先行して現れているはずですので、まずは、P波らしき波形として見るのが大切です。

多くは語りません。本項で、形状ではなく定義で読むことを、肝に銘じてください。

洞調律の波形は無数にあります。くれぐれも、形で覚えようとしないでください。ゴールが遠のきます。

1) 改訂第11版 救急救命士標準テキスト (救急救命士標準テキスト編集委員会)、574頁、図Ⅲ-5-7 心電図の基本波形、2020年、へるす出版

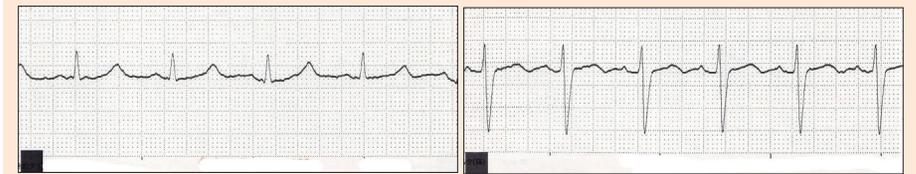


図2-1

図2-2



図2-3



図2-4



図2-5



図2-6



図2-7

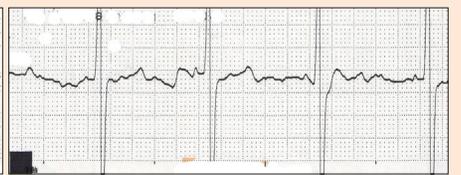


図2-8

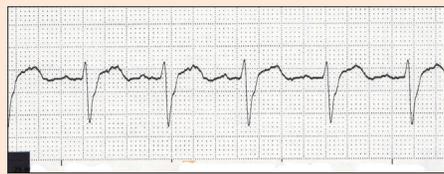


図2-9

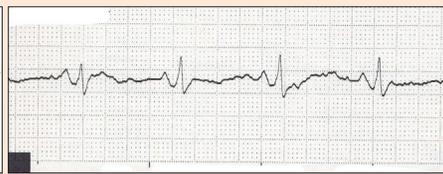


図2-10



図2-11

図2 洞調律